

#### 4. <発想の転換、水浮き草も使い様・・・>

最終沈殿池で藻が発生すると、見苦しいだけでなく、腐敗して悪臭を放ったり、ユスリカ（幼虫は赤虫）が発生するなど、下水道の維持管理に携わる者にとって、藻の除去作業は重要な業務の一つとなっている。藻対策としては、越流溝やVノッチへの銅版貼付や覆蓋化が主流となっているが、処理場現場でも、越流溝に樹脂板を被せて遮光したり、農業用の遮光ネットで池全体を覆うなど、藻の発生を抑制する色々な工夫を行っている。ここでは、私が経験した超ユニークな藻対策の試みを紹介する。

10年ほど前に私が勤務したある処理場では、2階式最終沈殿池の地階層への資材搬入口（1.7\*1.7m；64箇所、1.7\*3.1m；8箇所、総数72箇所）に最終沈殿池の処理水が滞留して蚊や藻の繁殖場となり、その対策に苦慮していた。水が滞留しないように水抜き穴を設けたり、銅版をコンクリート壁に貼付したが思うような効果が見られなかった。ある時、上司が「森さん、何故、藻が発生するのですか？」との質問。何を今さらと思いつつ（すみません）、「太陽の光と窒素、磷に炭酸ガスがあれば発生しますよ。」と答えた。暫くして、「水面に浮き草が浮いている池には藻が無いし、蚊も発生していない。一層のこと、水浮き草を全ての滞水池に浮かべてはどうでしょうか？浮き草があると蚊が産卵できないし、光が水面に届かないので藻も発生しないのではないのでしょうか！」。藻対策に野池に浮いている水浮き草を使うというユニークな発想に戸惑いを感じたが、その日から暇を見つけては浮き草の移植作業をして見事に藻と蚊の駆逐に成功！ 実に、材料費は、ひしゃく一本！工賃無料！効果絶大！だった。工事等で池の水を抜くと資材（浮き草）が流出することや、見栄えが良くない（と感じる人がいる）ことが課題としてあげられるが、するどい観察力と問題意識そして発想の転換が、身近にあるが見逃されがちな水浮き草を優れた自然の働きものに大変身！の事例を紹介しました。

< 森 孝志 >

※No. 5号(2002/7/17)に掲載